



死海には生物はいるの

生物がほとんどいないから、死海という

死海とは、ずいぶん変わった名前ですね。死んでしまった海という字を書くのですから、どんな海なのか、気になりますね。死海は、西アジアの、ヨルダンとイスラエルの国境にある湖です。死海は「海」という字が使っていますが、本当は湖です。

この湖は、南北に細長く、海面よりも、400メートルも低いところにあるのです。湖の最深部は、マイナス826メートルです。

この湖は、乾燥地帯にあるので、ヨルダン川などから流れこむ水の量と同じ量だけ水分が蒸発してしまいます。そのため、湖の塩分が高く、湖の表面で20パーセント（海水の約5倍）、底の部分では、30パーセントもあります。生物はほとんど生きることができません。それで、死海という名前がついたのです。

また、塩分がこいたために、人の体がまったくしずまないことで知られています。海水浴に来た人が、あお向けに寝ても体がしずまないの、ぷかぷかとうかびながら新聞を読むことができるほどです。

さまざまなミネラルにめぐまれた湖

死海は、さまざまなミネラルの豊かな湖として知られています。塩化物、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、カリウム、臭化物などにめぐまれています。

最近、世界中から観光客が訪れています。死海の水は、アトピーの治療や、美しいはだ、ダイエットにいいともいわれ、この目的のために訪れる人もたくさんいます。

（監修・保岡 孝之）

